

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 井上
日 時	令和2年6月24日(水曜日)	開 議 閉 議	午前 9時30分 午後 0時28分
出席委員	◎山本 ○松山 三上 浅田 木村 福井 木曾 石野 (齊藤議長)		
執行機関 出席者	桂川市長 田中生涯学習部長、小塩文化国際課長、三宅生涯スポーツ課長、 岡田文化国際課主幹、岩崎生涯スポーツ課副課長、		
事務局	山内事務局長、井上事務局次長、鈴木議事調査係長		
傍聴	可	市民 3名 報道関係者 2名	議員 6名 (富谷、大塚、平本、赤坂、三宅、小川)

会 議 の 概 要

9 : 3 0

1 開議

2 事務局日程説明

9 : 3 1

3 市長質疑

(1) かめおか霧の芸術祭について

<山本委員長>

このあと9時45分から市長に出席いただき、かめおか霧の芸術祭について、市長の考えを聞き質疑を行う。質疑項目については、委員の意見を取りまとめて、昨日市長に送付した。市長入室前に、2点諮っておきたいことがある。1点目、市長への質疑の仕方は、項目ごとにするか、全体を通してするか。2点目、部長にも入っていただくが、市長退室後、東京オリンピック聖火リレーや京都スタジアムでのイベントの件について聞くため、部長に残っていただくか。1点目の市長質疑の仕方について、ご意見をいただきたい。

<福井委員>

項目ごとにすればどうか。関連性があるので飛び越して言わなければならないこともあるが、全体とするとまとめにくいのではないか。

<木曾委員>

項目ごとに整理しながら進めていけばよいと思う。関連するので順番が前後するものもあるが、市長には、先にそのように言っておけばよいのではないか。

<山本委員長>

質疑については、項目ごとに行う。関連したことで前後することもあると最初に了承いただき、質疑していく。2点目、部長に残っていただくかどうかについて、ご意見をいただきたい。

<福井委員>

京都スタジアムで行う事業の内容がよくわからないので、部長に残っていただける

ならぜひ話を聞き、その後で討論できたらよいと思う。

<山本委員長>

部長と担当課に残っていただくこととする。理事者入室まで暫時休憩とする。

9 : 3 6

(休 憩)

9 : 4 0

(市長・生涯学習部 入室)

<山本委員長>

先にお渡ししている質疑事項に基づき、市長の見解を伺う。

<市長>

総務文教常任委員会で貴重な時間をいただき感謝申し上げます。市長質疑事項としていただいている7点について報告申し上げます。

1点目、3月の予算特別委員会において、コロナの影響が出れば削減される予算であると発言したことは事実である。附帯決議を付けて当初予算を通していただいた。

4月8日に緊急事態宣言が発令され、行政もいろいろな措置を進めてきた。5月21日に京都府が緊急事態宣言を解除され、その後、国も解除されて、実質6月1日からコロナ後の取り組みが始まっている。6月議会には、かめおか霧の芸術祭に関わって100万円の減額補正を出させていただいた。かめおか霧の芸術祭は、来年1月、2月が本番であり、議会が言われたように、今後の状況の中でコロナの第2波、第3波がきて、亀岡旧町内で実施する来年の本事業ができないような状況になれば、予算減額を考えたいと思っている。現時点においては、都道府県の移動が解除になり、これから経済復興に向けた取り組みが進む中で、今、かめおか霧の芸術祭の予算を削減するものではないと思っている。

2点目、市民にはいろいろな思いがあることはもちろんそのとおりであり、そのために亀岡市は取り組みを進めている。そのこととかめおか霧の芸術祭の位置づけは、違うものだと思っている。もちろん公金ということではあるが、この事業をするからコロナ対策事業の予算が足りないということはない。国からも、2次補正予算を含めて、まだ具体的な金額は示されていないが、十分なコロナ対策費用がおりてくる予定である。

3点目、花火大会、ハーフマラソン大会については、事業の質が違うということである。花火大会は、昨年11万人が来られた。ハーフマラソン大会は、昨年5,000人が来られ、一時に人が集まる事業である。かめおか霧の芸術祭は、一時に人を集める事業ではないと思っており、今回はH商店街を含めた空き家を活用し、周辺全体を取り込んだ事業を進めていく予定である。

4点目、期限を決めて取り組むこと、行政は少しずつ手を引いていると説明を受けたということであるが、手を引いているというのは、昨年度は、KIRI CAFEの運営やKIRI WISDOMの取り組みは実行委員会が行ってきたが、今年は、コミュニティデザイナーの山崎亮さんや松井先生がプロデューサーとなり、芸術家の方々が事業を進めるために独自に作られた、一般社団法人きりぶえという組織が担ってくれている。減額補正した100万円についても、亀岡市がやるなら100万円要るところを、一般社団法人きりぶえがやってくれるので削減したということである。かめおか霧の芸術祭を通じて新たな組織ができ、その組織が独自に事業を展開するようになってきている。官民協働事業の中で、民が自主的に動き始めたという現状である。

5点目、3月予算特別委員会の発言から、6月議会で亀岡のリーディング事業に変わったがどう違うのかということであるが、そこで今日お伝えしたいのは、配布資料の2020年度SDGs未来都市の提案についてである。3月20日に内閣府に対して、亀岡市がSDGs未来都市を申請した内容の一部抜粋である。その時点では、全国から数多くの申請がある中で、亀岡市の申請がどうなるかが見えていなかった。4月15日までに一次審査を突破し、二次のヒヤリングを受けることになった。まだ、正式な通知はないが、全国の30都市以内に入ったと聞いている。亀岡市が進めてきたかめおか霧の芸術祭が、持続可能な社会を作っていくためのSDGs未来都市として国に認定される。二次審査の結果により全国10位以内に入れば、新たな補助金がもらえるので、期待しているところである。SDGs未来都市について、なぜかめおか霧の芸術祭なのかということが一番の問いだと思う。4ページに、今後取り組む課題が書かれている。亀岡市としては大きく4つあり、1つ目は京都スタジアム、亀岡駅北周辺や、投資、イノベーションの拠点づくり、2つ目は高齢化したベッドタウンから産業転換、これは南つつじヶ丘、つつじヶ丘の住宅団地から、篠町の工業団地など、新たな雇用を生み出すような新たな産業を創出していく場所を作っていくことである。3つ目は、本市の基幹事業である農業の維持ということである。農業は、いろいろな意味で可能性があり、保津町で行っているスマート農業、また、国営ほ場整備を曾我部町や市内6カ所で実施してきている。引き続き、より未来にとって必要な産業として位置付けていく必要がある。4つ目は、世界に誇れる環境先進都市の実現である。これらを結び付けていくハブとなるのが、かめおか霧の芸術祭と書いている。6ページを見ていただくと、2030年のあるべき姿、ピンチをチャンスにと書いているが、地域課題解決に向けた取り組みをテーマとしたかめおか霧の芸術祭を通じて、ヒト、モノ、カネのあらゆる資源をつなぎ、イノベーションを起こしていくということがここに書かれている。亀岡市におけるかめおか霧の芸術祭は、SDGs未来都市を含めて考える時に、今後の課題を解決するための事業として実施していることが、6点目のリーディング事業につながってくるということ、まずお伝えさせていただきたいと思う。

6点目の、亀岡市のリーディング事業は生涯学習だと思ってきたということであるが、これは取り方の違いで、これまでは、スタジアムを核としたまちづくりがリーディング事業であったと思っている。これが完成し、動き出した。次は、それも取り込む中で、かめおか霧の芸術祭をリーディング事業と位置付けていく。地域の課題解決に向けた取り組みを、かめおか霧の芸術祭を通じてやっていくということが、今、亀岡市が考えている取り組みである。それが、2020年の国の定めるSDGs未来都市への大きな取り組みの第1歩だと思っている。そういう面では、全国30のSDGs未来都市に亀岡市が名前を連ねることができるようになってきた。そして、以前、議会に報告したが、仲山副市長を中心とする地方創生政策アイデアコンテスト2019の最優秀賞をかめおか霧の芸術祭で取らせていただいた。地域の課題を解決するための芸術祭を実施することをテーマに、仲山副市長と職員が取り組みを発表し、そのように評価いただいた。その中には、地場産業や産品、体験を販売する場の創造、フライバッグプロジェクトもその一つである。ハーベストジャーニーかめおかという海外の方々や海外のアーティストと交流するような取り組みもこの事業に入っているし、その他、やおやおやプロジェクトや、今後、亀岡駅北の亀岡保津川公園に新たな市民農園を作ることを計画しているが、そこでは、小屋から見た新たな風景とダーチャプロジェクトというものが始まっている。ダーチャとは、ドイツではクラインガルテン、ロシアではダーチャという、農家が週末農業をするための滞在拠点である。今、かめ

おか霧の芸術祭から、このダーチャ、農業の小屋について、新たな芸術の観点の中で、公園の中に設置する取り組みの提案をいただいている。その他、地域ブランドの農産物の認定制度など、全体で50人以上の方々に関わっていただき動いている。

7点目、予算的には増加しないように考えており、基本的には単費を減らして国の予算を取ってくる。SDGs未来都市も、10位以内に入れば国の補助金がもらえるので、それもここに投入していく。一般社団法人きりぶえのような組織、また、それぞれがいろいろなコミュニティを作りながら、課題解決に取り組んでくれている。アーティスト、感性豊かな方々にまちづくりに参加していただくことで、いろいろなアイデアを魅力あるまちづくりにつなげていきたいと考えている。そういったことから、かめおか霧の芸術祭を亀岡のリーディング事業と称した訳である。今後、秋、もしくは来年1月、2月にコロナの第2波、第3波が亀岡で発生するようであれば、即刻、事業を中止する。これは、3月予算特別委員会で示したとおりである。今、かめおか霧の芸術祭は、各委員に動いていただき、取り組みがじんわりと始まっている。裾野を広げていくことがかめおか霧の芸術祭であり、ただ単に作品を並べて見るだけの芸術祭ではない。特に、地域の課題解決のために政策のハブとして位置付け、専門の方々からいろいろな意見をいただき、より良い亀岡の未来づくりを進めていきたいと考えている。その結果として、国が認めてくれるであろうSDGs未来都市の取り組みにつながっていくと感じているので、今回、この議会においてリーディング事業という方向性を出させていただいた。以上である。

<山本委員長>

市長から7項目について説明いただいた。項目ごとに質疑していきたい。関連するのは項目をまたぐこともあるが、理事者にはご了承いただきたい。一問一答で質疑いただきたい。1点目について、質疑はあるか。

<木曾委員>

3月予算特別委員会で、市長は、影響が出た場合には予算的にも一番先に削られることになるだろうと言われた。我々はそのことを高く評価し、予算に賛成した。それ以後に緊急事態宣言が出て、自粛が発せられ、亀岡でも事業を中止されてきた。6月に入り全国的に緊急事態宣言は解除されたが、市長も6月の一般質問の答弁で、第2波、第3波が心配されると言われている。附帯決議を重く受け止めていただいたと思っていたが、6月議会での市長の発言を聞き、我々と視点が違うと感じた。経済的状況も生活も、今の亀岡の現状は、新型コロナウイルスの影響でかなり傷んでいると思うが、そのことに対しての考えを教えてください。その前に、かめおか霧の芸術祭実行委員会の中で、亀岡市議会は芸術に対して全く理解がないというような話があったようだが、総務文教常任委員会では誰1人、そのようなことを言ったことはない。小塩課長が言われたことについても、趣旨は理解していると何度も言っているのに、どのような伝わり方をしているのか、非常に残念に思う。議会が議論している内容を、実行委員会に正確に伝えていただきたい。それは別として、附帯決議についてもう一度、市長からお願いしたい。

<市長>

附帯決議については、重く受け止めている。コロナの状況は刻々と変化している。4月、5月に、厳しい状況にある市民や事業者を少しでも元気づけ、経済を安定させていくために、いち早い特別定額給付金の取り組みや、うちメシ応援事業、観光に関わる取り組みを実施し、今議会にも追加提案している。足りない分については、今後も引き続き補填し進めていきたいと考えている。かめおか霧の芸術祭については、3密対策により、第2波、第3波を作ることはない。実行委員会で、吉田委員

からいろいろな意見が出たが、この事業に対して反対されているというよりも、もっと自分の意見を事業の中に取り入れてほしいという意見であったと思っており、実行委員会の中で、プロジェクトの中に入れていただくよう検討している。今後、第2波、第3波がくる可能性はあると思っているが、あるから止めるということではない。止めることは簡単である。どのように事業を継続し、亀岡の経済やにぎわいにつなげていくかを考える必要がある。今後、来年1月、2月の前にそのような状況にあれば、議会から指摘いただいた位置づけの中で、しっかりと精査していきたいと思っているが、今はその状況にはない。ましてやコロナの場合は、刻々と状況が変化しており、臨機応変に、迅速に対応することが求められている。今の段階は、経済をどうやって復活させるか、にぎわいをどうやって作っていくかということを考えていかなければならない。しかし、花火大会やハーフマラソン大会には、外から多くの人に来て、一気にその場所に集まるので、3密状況が出る。それは回避しなければならないということで中止を発表したが、かめおか霧の芸術祭は、エリアもH商店街を中心とした空き家であり、まちなか全体を使った取り組みであることから、個別の展示会場については3密対策を施していけば十分に対応できると考えており、現時点においては予算を削減する状況にはないと判断した。

<木曾委員>

市長と議論がかみ合わないところもあるが、コロナ対策について、市長自ら先頭に立ち、積極的に進めていただいていることはよくわかっている。ただ、かめおか霧の芸術祭は、もともと市民理解が得られにくかった。小塩課長から、今年度はわかりやすい形で進めたいのでいろいろな工夫をしていると聞いたが、ここまで新型コロナウイルスの影響が深刻になるとは考えていなかった。今の実情に合わせて、市民理解が本当に得られるのか。これから製造業に影響が出てくるとも言われている。そういう状況で、この事業が市民理解を得られるのかと、議員の我々も市民から問われている。今は厳しい状況にあるので、事業を考え直して、例えば芸術家が困っているならその方を支援していくような方法を考えて、事業は今年1年間、コロナが収まるまで待った方がよいのではないか。実行委員会で吉田さんも言われたように、公金を支出するのであれば説明責任が必要になってくると思っているがどうか。

<市長>

コロナの現状は、亀岡では1カ月以上感染者は出ていない状況である。今は、経済をどのように復興していくかという時期に入っている。行政が音頭を取り、より元気なまちにしていくための施策を打たなければならない時である。全ての行事を止めてしまって本当にいいのか。商業者は観光に来てほしいし、飲食店も人が来てほしい。人が大きな密にならない中で、人が動いて経済を動かしてもらわなければ、いくら市が補助金や給付金を出しても、それは一時のことであって、本来の軌道には戻っていかない。6月28日には、サンガの試合も無観客であるが始まる。7月からは約5,000人、8月からは1万人を集めることができるようになってきた。今、経済を元に戻していかなければいけないのに、中止することが亀岡市にとってよいのか。私は、本当は花火大会もハーフマラソン大会もやりたいが、多くの方が集まるので危険性があり、第2波、第3波を亀岡市から作ることはできないため、やむを得ず中止した。コロナの状況は刻々と変わってくる。議員が言われるように、市民から言われる時が来るかもしれない。その時は、事業を停止することになるが、今の段階では、来年1月のことを見据える訳にはいかないと思っており、今後の状況を見て考えていきたい。そのことが附帯決議だと思っている。

<木曾委員>

経済活性化は必要であるが、そうではなく、今この時期に何をすべきかという議論であると思う。市長は、かめおか霧の芸術祭を核にして経済を活性化したいと言われたが、我々は、もう少し身近な経済対策をとることがタイムリーではないかと言っているのである。

<市長>

そのとおりである。今やるべきことは、補正予算を含めてどんどん提案している。今、かめおか霧の芸術祭の予算を減らす必要はないと思っている。減らしたとして、何が変わるのか。このお金がなければ、次の補正が組めないということではない。財政のコントロールは十分させていただいているので、これからもコロナ対策に必要な施策はしっかりと打っていきたいと考えている。

<三上委員>

附帯決議を重く受け止めたとのことだが、どのように重く受け止めたのか。それをどう所管部に指示したのか。

<市長>

重く受け止めたというのは、第2波、第3波の影響が出れば事業を中止するということを含めて受け止めているということである。所管には、今の時点で予算を削減するよりも、現状を見ながら準備を進めていき、来年1月、本体の事業をやる時の状況を見てしっかり判断するように指示している。

<山本委員長>

2点目、3点目については話があったので、4点目、期間を決めてということについてはどうか。

<福井委員>

行政として関わっていく時期の目途を示してほしいということについてはどうか。

<市長>

状況は刻々と変化している。当初、2020年の東京オリンピックを前提に、国からスポーツと文化を振興するという方向性が出された。その文化を含めた市民交流、サンガとの連携を含めた取り組みをやっていこうということで、かめおか霧の芸術祭が発足した。ところが、当初思っていたものから変わってきて、人も50人以上が関わるようになってきた。ここからいろいろな提案を受け、KIRI CAFEやKIRI WISDOM、環境とのコラボ、農業とのコラボが波及して動いてきた。その中で、仲山副市長を中心とした若手の政策グループが、亀岡の未来に向けた取り組みとしてかめおか霧の芸術祭がハブとなっていくであろうと提言し、それが国でも認められた。それにあわせて、SDGs未来都市を国に申請した。その第一次審査を通り、全国30位以内に入り、第二次審査を受けることになった。このように、事業自体がどんどん動いてきている。コロナの状況も動いていくので、状況に合わせながら、本当に亀岡市に何が必要なのかを考え、2030年、2040年の環境、農業、そして駅北を含めたにぎわいをとらまえる中で、地域の課題解決に取り組む事業になってきている。今後、民間の取り組みを促していき、官民協働事業がより広がっていくことが、生涯学習にもつながるものと考えている。

<山本委員長>

5点目について、質疑はあるか。

<福井委員>

SDGs未来都市の申請のことは知らなかった。知らない中で当初予算、補正予算の審議をしてきた。そして本会議で市長の発言を聞いた。当然、何を言われているのかと思う。そこまで言われるのであれば、10年後の亀岡の未来、10年後に至

っていくストーリーを示してほしいと思う。10位以内に入れば補助金がもらえるとのことだが、10位以内に入らなければどうするのかもわからない。次の項目に入るが、亀岡市は生涯学習を30年やってきた。かめおか霧の芸術祭の中でも、陶芸教室や竹とんぼ作りをしている。よいことだと思うが、ガレリアかめおかという、生涯学習施設として建っている、生涯学習をする殿堂があり、いろいろな団体を作り、いろいろな行事を行い、生涯学習として動いてきた。それが何の予告もなく、かめおか霧の芸術祭に転化するのか。そのあたりが理解できないので説明してほしい。

<市長>

生涯学習は、亀岡市の根幹、ベースであり、亀岡市が市政運営を進める上で目標とし、それをベースにした取り組みである。かめおか霧の芸術祭の根底にも、生涯学習部がそれに関わっていることも含めて生涯学習がある。私の言うリーディング事業は、これまではスタジアムという誘致されたものを具現化し、駅北のまちづくりを進めていくことであり、私が市長に就任した後の一番大きな課題であった。それを見据えて全力投球してきたが、一定、収束してきた。次なる亀岡市を魅力的に発信し、また、亀岡市のいろいろな課題を解決していくことに必要な事業としては、かめおか霧の芸術祭であると今回言わせていただいた。3月予算特別委員会においては、かめおか霧の芸術祭をSDGs未来都市に応募する方向性は出していたが、まだ、国に採択されるかどうか分からない状況であったため、憶測を持って言うことはできなかった。4月に一次審査を通り二次審査に入ったが、一次審査を通り全国30位以内に入ったということは、亀岡市がSDGs未来都市の冠を使うことができるようになったということである。そういうことが決まってきたことで、私の議会での発言意図も変わってきたのが現状である。これからどんどんまちは進化していく。よりよい形でまちを変えていきたい。2030年を目指したプラスチックごみゼロ宣言や、農業のオーガニック野菜を作る取り組みなど、かめおか霧の芸術祭に関わりを持ちながら、新たな取り組みが始まってきた。3月議会の発言から、6月議会の発言に変わったのは、国に認められたことで、亀岡市の今後の目指す方向性を定めることができてきたということである。

<福井委員>

未来像を明確に言えというつもりはないが、かめおか霧の芸術祭をリーディング事業として進めた場合、10年後の亀岡はどうなるのか。

<市長>

7ページを見ていただきたい。30年後を見据えた10年後のターゲットが書かれている。市民が社会的なつながり、イノベーションが活発な都市になっていくために、かめおか霧の芸術祭を活用していく。それにより、芸術家や起業家などの移住者数を増やしていく。現在は移住者総数26組中2組であるが、2030年には20組にしていく目標を掲げている。他に、市内事業者数を増やしていくことも掲げている。その他、プラスチックごみゼロ宣言もその一つであり、農業のオーガニック野菜を作る人も、今は2農家しかいないが、20農家に増やしていくという具体的な目標を掲げて、30年後の亀岡を見据えた取り組みを進めていきたい。

<三上委員>

国に出した申請書の抜粋とのことだが、この「かめおか霧の芸術祭×X（かけるエックス）」という表題で国に出したということか。

<市長>

そのとおりである。時間を取っていただけるなら、全議員の皆さんにSDGs未来

都市について説明させていただきたいと思っている。

<山本委員長>

質疑項目6点目、7点目が残っているが、ここまで市長に答えていただいたことを踏まえて、全体を通して何か質疑はあるか。

<木村委員>

かめおか霧の芸術祭を知らない市民も多い。レジ袋の問題が昨日もテレビで取り上げられていたが、代替レジ袋購入の資金がないと困っておられる。確かにかめおか霧の芸術祭はよいことだと思うが、今年はコロナ対策に予算をできるだけつぎ込み、もっと亀岡市全体でコロナが収束し、経済も収束した中で行えば、市民理解が得られるのではないかと。うちメシ、そとメシ事業にもう少し予算を増やし、コロナの影響もなくなり、レジ袋の問題も軌道に乗ってからかめおか霧の芸術祭を本格的に行うということであれば、市民理解が得られるのではないかと。と思うがどうか。

<市長>

環境に関わっては、フライバッグプロジェクトもかめおか霧の芸術祭からの提案である。昨日の読売新聞に記事が掲載されていたが、また、昨日と今日、新聞に掲載されていたレジ袋代用品の紙袋も、そこに芸術家のシンボルマークを入れていくなど関わっている。かめおか霧の芸術祭が、そのような課題解決のために関わりを持って動いてきている。市民理解が図れるよう、市民にもっと広報していく。地域の課題解決、未来に向けた文化に関わって、いろいろな意味で底辺を支えてきて、そこに集う先生方がいろいろな意見を言っていることが、亀岡の宝になってきていると思っている。予算がないからコロナ対策ができないということはない。十分に予算化できるとしており、これをやめればこれができるという話ではないと思っている。コロナ対策に必要なことは、議会からもどんどん提案いただき、必要であれば予算をつけていきたいと思っている。

<木村委員>

予算の問題ではなく、市民に理解が得られるか得られないかの問題であると思う。10年計画を言われたが、何年後に公金がなくなり、利益がどう出るかというようなことは考えているのか。

<市長>

10年後のことは、今策定している第5次総合計画の中に入ってくる。今の段階で10年後のことを明確に言うことはできないが、SDGs未来都市に掲げたものについては、示すことができると思っている。現状として、予算がどうなるかを勘案している状況にはない。

<石野委員>

この資料は、あったのであればもっと早くに議会に出してほしかった。

<市長>

ご指摘のとおりである。もう少し早い時期にこのような説明の場があればよかったが、まだ具体的に結論が出ていないので、本来はそれが出た段階でお示しすべきだと思っていた。遅れて申し訳なく思っている。

<浅田委員>

かめおか霧の芸術祭は、地域によっては期待されている。実行委員会を傍聴したが、委員の意見が一致していないと感じた。まずは実行委員の意思を一つにすべきだ。

<市長>

ご指摘のとおりである。実行委員会の中で、もっと情報を共有していく。図の赤枠のところは実行委員会であり、その他にたくさんの枝葉があって、それぞれの中で

プロジェクトが動いてきている。吉田先生は、その部分ももう少し詳しく教えてほしいし、そういうところにも意見を言いたいと言われた。そういうことを調整し、先生に具体的なプロジェクトにも関わっていただくようお願いした。

<木曾委員>

いろいろと市長の思いを言っていたが、我々の思いも市長に伝わっていないし、市長の思いも我々に伝わっていないように感じた。かめおか霧の芸術祭実行委員会のされていることを否定している訳ではないが、時期を見計らい、タイムリーな事業をやるのが行政の仕事ではないかと思う。そこには公金が支出されるので、市民の関心はそこにある。私たちも初めて見せていただいたSDGs未来都市の申請内容について、市民がどこまで理解できるかがこれからの問題になると思う。実行委員の素朴な意見で、難しい話でなく、亀岡祭などの身近なところで芸術を感じてきたと言われた方もおられる。国から補助金をもらうから事業をするということではなく、亀岡の身近なところで芸術を感じてきた方や、亀岡で文化財などを保存してこられた方にも理解ができるようにしていかなければ、この事業が市民理解を得るのは難しいと思う。それに公金を支出するのであれば、なお疑問に思われると思う。市長は、今から来年1月、2月のことを予測するのは難しいので実行すると言われるが、我々は3月にそのように発信しているので、それを踏まえていただきたいと思う。予算を認めている以上は実行されるだろうとは思っているが、来年度、検証する時に、今市長が言われていることが正論であるのかどうかは、この後の検証にかかってくると思うので、それも踏まえて十分に精査し進めていただきたい。

<市長>

3月議会で、令和2年度予算を認めていただいた。その中で、コロナの状況が変わればこちらも対応していきたい。それが、議会からいただいた附帯決議の内容だと思っている。

<福井委員>

3点ある。1点目は提案であるが、実行委員会に議会が誤解されているのであれば、一緒に話をすればよいと思う。2点目は、第5次総合計画にかめおか霧の芸術祭を明記していくということであるが、生涯学習との関係を教えてほしい。3点目は、文化資料館に絵などを展示すると言われていたが、文化資料館には館としての目的があり、現代アートを展示することはできないのではないかと。

<市長>

1点目は、ぜひ実行委員会と議会との議論の場を作っていただければ有り難いと思う。私から実行委員会に伝えたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

2点目の生涯学習との関係は、かめおか霧の芸術祭は生涯学習というベースの中にあるという位置づけは変わらない。

<文化国際課長>

3点目は、2月のコアイベントの時に、文化資料館での展示を考えている。文化資料館と一緒に企画し、現代アートを関係性のないままに展示することは考えていない。既に何度か話し合いを持っており、先日も吉田さんを含む芸術家と学芸員とで話しをし、亀岡の持つ地域資源、民具、亀岡の歴史と、亀岡で生まれた芸術を掛け合わせたということテーマに作っていきこうということで、関係性を十分持った中での企画展を考えている。

<三上委員>

資料23ページに、推進本部を行政の中に作り、そこが主体となってやっていくということと、ステークホルダーということで、外の団体としてかめおか霧の芸術祭

が説明されている。この図式が正しいのか。行政が主体となってSDGsを進めていくということでしょうか。

<市長>

SDGs未来都市を進めていく上では、亀岡市が主体となり推進本部を設けていくことになる。

<三上委員>

かめおか霧の芸術祭も一つの外部団体のアイテムであるが、国に認定してもらい、予算を取ろうと思うと、このかめおか霧の芸術祭は政策コンテストで優秀賞を取っているのでアドバンテージになる。国に提案するには、かめおか霧の芸術祭と書いておけば大きなアドバンテージになると思うが、これを市民が見た時には、17項目全てできたら幸せになるけれど、それをかめおか霧の芸術祭に託すのかと受け取られるのではないかと。かめおか霧の芸術祭実行委員に託すのかと取られると思う。そうではないということをはっきりさせなければ、市民理解は得られないと思うがどうか。

<市長>

かめおか霧の芸術祭は、地域課題を解決するために、ハブとなっているいろいろなアドバイスや協力をする一つの組織である。SDGs未来都市の中では、亀岡市推進本部があり、その外側にある団体として位置づけ、連携を取りながらやっていくことになっている。かめおか霧の芸術祭は、いろいろな意味でかわりを持ちながら、より質の高いものを作っていくための一つの手法であり、人材バンク的な要素がある。

<木曾委員>

6月議会一般質問の私の質問に対して、かめおか霧の芸術祭は亀岡のリーディング事業で、これがなければ亀岡は、その辺の衰退する自治体と同じようになるとまで断言された。衰退している自治体とは、具体的にどこか。

<市長>

人口減少は、統計上、亀岡も表れている。今、第5次総合計画策定の中で、人口推移も計画している。どの自治体も、何もしなければ衰退していくことになる。その衰退という意味は、人口が減少し、結果として地域のにぎわいが失われていくという意味であり、総称してそのような表現をしたところである。

<木曾委員>

私の質問に対し、市長にはいろいろな思いがあって言われたと思うが、本会議で言うこととしては少し不適切であったのではないかと。違う表現をした方が、市民にも我々にも響いたのではないかと。亀岡市はやっているが他はできていないと言っているように聞こえるので、表現の仕方を考えて答弁した方がよいと思う。

<市長>

ご指摘のとおりであり、今後注意する。

昨日の京都新聞に載っていたが、コロナ後の社会の在り方が大きく変わり、特に今までのように箱物というよりも、地方分散型にシフトしていきと言われている。その受け皿を作っていくことが、今、地方都市として大切だと思っている。亀岡市も、そういうことも含めて取り組みを進めているところである。

<松山副委員長>

1年後、2年後、行政の歳入は大きく減ると予想される。どのような采配を考えているのか。

<市長>

行政は、税収と地方交付税、その他の収入で事業を運営している。入りに見合った事業を進めていかなければならないと思っている。ふるさと納税を含めて、収入が確保できるよう戦略を立てている。来年度、再来年度は税収が減っているのので、それに向けた対策もしっかりと取り組んでいきたい。

<山本委員長>

以上で質疑を終結する。市長におかれては退席いただいて結構である。

10 : 53

(市長退室)

<山本委員長>

部長、課長に残っていただいているので、かめおか霧の芸術祭、京都スタジアムのイベント、東京オリンピック聖火リレーについて、質疑をいただきたい。

まず、かめおか霧の芸術祭について質疑はあるか。一問一答でお願いします。

<福井委員>

100万円の減額補正のことだけで、これだけ質疑を行った。かめおか霧の芸術祭実行委員会も傍聴に行った。実行委員会を傍聴に来てほしいと言われるのなら、なぜこのSDGs未来都市の申請について、教えてくれなかったのか。

<生涯学習部長>

SDGs未来都市は、かめおか霧の芸術祭が関わっているが、全庁的な取り組みである。先ほど市長が申した通り、公式な結果は出ていない。不確定なところがあるので、この資料は内部的な取り扱いとしてきた。

<三上委員>

予算がついたら出してくるということが多い。これは、根幹に関わる市の方針である。認定されてもされなくても、この方向で行くということをあらかじめ出すべきではないのか。

<福井委員>

皆に出せないのであれば、せめて正副委員長に話をしておいてほしい。そうでなければ審議にならない。まだはっきりしていないから出せないということであれば、なぜ今日出したのか。

<木曾委員>

第5次総合計画に関わる大切なことを、なぜ今日出してきたのか。今後の総合計画の審議にも関わってくる。先日の質疑で議論となったことを、市長質疑事項としてまとめた。その時点ででも、配付して説明すべきだったのではないか。順番が間違っている。庁内全体で取り組むことになる、大きく機構が変わってくる。事業自体が大きく変わる。生涯学習部としては、総務文教常任委員会に話をして理解を深めるようにすべきだったのではないか。

<生涯学習部長>

今日は、よりかめおか霧の芸術祭の位置づけを分かっていたくためにこの資料を出させていただいた。もっと早くに出すべきであったということは反省している。市長も申し上げた通り、全議員に時期をみて説明させていただく。

<松山副委員長>

先日の実行委員会で、吉田さんが、謝礼金をもらったが返したと言われていた。実行委員会の中で、お金の管理はしっかりなされているのか。

<文化国際課長>

もちろんしっかり経理している。出展者に出展のお礼として出したお金であるが、

吉田さんはそれを辞退されたということである。

<山本委員長>

次に、東京オリンピック聖火リレーのことで、質疑はあるか。

<石野委員>

東京オリンピックについては、国も縮小と言っている。今必要なコロナ対策に、予算を振り向けることはできないのか。

<生涯スポーツ課長>

警備計画については、1月にプロポーザルを開始し、3月10日に契約した。組織委員会から来年実施するという発表があり、京都府からもそのように聞いているので、あるものとして準備を進めていかなければならないということで、今の予算を来年度の準備をしていく費用として使っていきたいと思っている。いったん予算を落としても、12月補正でまた上げることになる。債務負担行為として、1月から契約行為をしていかなければならない。今の契約を止めると、また新たな契約を結ばなければならない。警察との協議も数回行ってもらっており、費用負担は既に発生している。それを破棄して一から契約するよりも、今のままでいきたいと思っている。

<福井委員>

予想でしかないが、来年聖火リレーがあっても縮小になるだろう。沿道に人を寄せられないかもしれない。そうなれば警備員は必要なくなる。なぜ契約をいったん止められないのか。

<生涯スポーツ課長>

縮小という話が出ているのは、セレブレーションなどのイベント関係であり、決まっている走者は優先的に走ってもらうと聞いている。コースは今のままだと思っており、警備員については、交差点や出入りのあるところ、国道から入ってくるようなところなどの要所であり、仮にコースが縮小されたとしても、減るものではないと思っている。逆に、コロナ対策の関係で警備員を増やさなければならぬのではないかと知っている。

<福井委員>

警備員が足りなければ、市議会議員24人全員出る。コロナと言う非常事態であるから言っているのだ。

<生涯スポーツ課長>

要所要所は警備員であるが、後はボランティアを考えている。募集していきたいと考えているので、議員の皆さんにもご協力いただけるということであればお願いしたい。

<三上委員>

聖火リレーに関わらない自治体も多い。やると言っていたが、来年はやらないというところもある。なぜ聖火リレーを行うのかをもう一度考え直すべきだと思う。人数を1万人集めるということ無しにしてまで、やる意味があるのか。前回の東京オリンピックでは、直前まで国民の認知度が非常に低かった。聖火リレーで認知度が上がり、気運が高まった。今回は、既に関心は高い。気運もある。敢えて聖火リレーをして盛り上げる必要はない。1年待たされたので、皆オリンピックに注目する。聖火リレー走者に決まっている人は残念だろうが、アスリートの中には1年遅れることで引退を余儀なくされる人もいる。そこは納得してもらって、聖火リレーをしないという論議をすべきではないか。

<生涯スポーツ課長>

止めるということは今のところ考えていない。半世紀に一度であろうオリンピックに、亀岡が参加できる唯一の機会ということで、実施の方向で考えていた。

<木曾委員>

新型コロナの関係で世の中は様変わりしたので、行政も変わらなければならない。予算が認められれば執行することが大事だということから、時と場合によっては見直す、削減するということも求められていると感じる。世の中が変わる時に主導していかなければいけないのは、やはり行政ではないか。全ての予算について、市民のためにどうなのかを考える時期にきているのではないか。その時、本当に大事なことが見えてくるのではないか。

<生涯学習部長>

聖火リレーは、セレブレーションが縮小されることは決まっているが、他についてはまだ明確な方向性が出ていない。京都に入り、北から順に走るが、京都としてこれを受けていこうという思いでやってきた。今後、議員の意見も踏まえ、京都府の考え方も確認した上で、再度方向性を整理して、また委員会で説明させていただきたいと思う。

<山本委員長>

次に京都スタジアムで行うイベントについて、質疑はあるか。

<福井委員>

先日も説明いただいたが理解できていないので、もう一度事業内容について、どういふことを、どういふ目的で、誰に向けてするのか説明してほしい。

<生涯スポーツ課長>

亀岡のアウトドアスポーツ資源であるラフティング、パラグライダー、乗馬、ランニング、トレッキングなど、亀岡でできることがたくさんあるが、あれもこれもできるというイメージが付いていないと思っている。それを周知するためには、ホームページで発信することも必要だが、イベントで体験してもらい、口コミで発信してもらうのが大事だと思っている。対象としては、亀岡市民はもちろんであるが、関西圏の子どもがおられる世代をターゲットとして、1カ所でそれぞれの紹介ができるイベントを、スタジアムの中や周辺で行いたい。具体的な内容は、それぞれの事業者にヒヤリングを行って、今後詰めていきたいと思っている。

<福井委員>

開催時期は。対象者に対する広報はどうするのか。

<生涯スポーツ課長>

市内にはチラシを作成して観光案内所などに置き、広くSNSを使って発信する。開催時期は、当初は秋を予定していたが、新型コロナウイルス、また京都スタジアムの関係で、3月の第2日曜日で調整している。

<福井委員>

新型コロナウイルスの関係で3月に開催できなければ、実施しないということか。

<生涯スポーツ課長>

そうである。

(質疑終了)

11:17

(生涯学習部 退室)

(休憩)

11:17~11:28

4 討論～採決

【委員間討議】

<福井委員>

京都スタジアム関連事業経費について、3月にイベントを行うということであるが、本当に実施することがよいのか、皆さんの考えを聞きたい。当初100万円の予算を組んでいたのに、別の手法を考えていたと思うのだが、宝くじの交付金が当たったのでイベントに切り替えたのではないかと考えている。

<三上委員>

その件も含めて、補正予算の賛否もあるが、意見をあげるかも含めて共通理解をしておきたい。東京オリンピック聖火リレーのことも含めて意見交換をしたい。

<木曾委員>

こういう事業をするために補助金をとりにいくということではなく、補助金がとれたから、これから何をしようかということ、今日は披歴されたように思った。新型コロナウイルスのこともあるが、3月くらいならどうにかなるだろうという説明だった。このような手法は、これまでからもその傾向はあったが、これからどんどん増えるのではないかと。計画もなく、補助金をとってから事業をやっている。本来なら、やりたい事業があって、補助金をとったが出来ないので、一般財源で100万円追加するというのであれば、計画があると理解できる。予算には必ず裏付けがある。補助金の申請をした時に計画があるはずだ。それを説明できないことは残念に感じる。賛否に関わる問題ではないが、議会として何かの形で言うべきだと思う。

<山本委員長>

他になれば、本日理事者から説明を受けた3点について委員間討議を行ってよいか。

<三上委員>

今回の補正予算の中で一番金額が大きいのは、1人1台端末である。どの自治体も、議会も対応を困っている。国の責任もはっきりしていない。それについても論議すべきだと思う。

<福井委員>

新型コロナウイルスの関係で、教育格差が生まれるということが問題になった。GIGAスクール構想は、3～4年計画であったものを、今年1年でやってしまうということである。国の交付金は緊急的な部分だけで、その先のことは何も考えていない。国に対して先々までしっかり補助するよう、意見書か決議を絶対にしていかなければならないと思う。購入費は国が出すが、後は各市町村でやれという話ではない。国策としてすることなので、この件について委員間討議をしたい。

<山本委員長>

他になれば、4点について委員間討議を行う。まず、GIGAスクール構想について、意見を願います。

<木曾委員>

GIGAスクール構想は、全国一斉に取り掛かるので、今年中に本当にできるのか心配である。もう1点、各学校の体制づくりができてきているのかということが一番心配である。まずは校内ラン整備工事をしなければならないので、結局、予算だけは先にとるが、当初計画のとおりになるのではないかと考える。しっかり手立てをする

ように、国、府に対して意見書を出す必要があると思う。

<石野委員>

1人1台パソコンは全国の問題であり、順番に入れていっても時間がかかるだろう。校内の整備もしなければならぬので、いろいろと難しい問題が出てくると思う。

<三上委員>

今年の補正予算であげなければ、国の補助金はもらえない。品薄になることも含めて、予算化しておけば来年に繰り越せる。リモート学習ができないのではないかということについても、教育研究所などのパソコンを貸し出し、家庭のネット環境も調査して通信機器の貸し出しで対応し、今すぐに新型コロナウイルスの関係で必要になっても何とか対応できそうだとすることも確認した。問題は、今後、地方自治体がかかりの財政負担をしていかなければならぬので、国に対してしっかり求めていかなければならないと思う。亀岡市も、実態に応じてやっていかなければ、電子黒板と同じ運命になるのではないかと思う。国に対して声を上げるというのは、理事者も議会もどちらもすべきだと思う。各学校は、今、子どもたちをいかにしっかり迎え入れるかということによっており、GIGAスクール構想どころではない。全く準備できていない。モノが揃うことはよいことだと思うが、活用については、教育課程の編成権はそれぞれの学校にあるので、教職員の得手不得手を生かし、学校の実態に応じて焦らずやっていくべきである。人員配置、指導、研修も必要になってくる。学校の負担にならないよう、責任を持ってすべきだ。

<浅田委員>

国に意見書を上げていくべきだ。Wi-Fiルーター整備を優先的にやっておかないと、端末があっても使えない。

<木曾委員>

子どもたちが、3月までに授業の遅れを挽回できるのか心配である。学校は、冬にインフルエンザで学級閉鎖になれば挽回できないという危機感を持たれている。GIGAスクール構想は、リモート学習ができるようにしてもらわなければならないが、国に対して意見を言う時には、そのことも加えて言うべきだと思う。

<山本委員長>

次に、京都スタジアム関連事業経費について、意見を願います。

<福井委員>

当初100万円で予算化した時には、おそらくイベントをすることは考えていなかった。補助金がついたので、イベントに変わったのではないか。そのような感覚がよいのか。パラグライダーやラフティングなどの亀岡の資源を、まとめて市民と近畿圏のファミリー層に発信する方法が、本来あったはずである。それは500万円必要であったかもしれない。宝くじ交付金が当たったので、イベントができるということになったのかもしれないが、それは違うと思う。本来、市民福祉に必要なものを予算化すべきであり、500万円の予算を組み、交付金が当たったから一般財源を減らすということであればわかる。その点が引っ掛かっている。

<山本委員長>

他になければ、東京オリンピック聖火リレーについて、意見を願います。

<三上委員>

実施ありきで、やらないということは考えていないということであったが、この事業が市民福祉の増進にどのように関わるのか、事業目的を考え、来年やるかどうかも含めて判断してほしい。縮小すればもっと警備員が減らせるはずだという技術的なこともあるが、根本のところ引っ掛かっている。今回の補正予算にはないので、

検討して次の議会で減額補正をしてもらいたい。聖火リレーを実施するとしても、今は減額補正をしてコロナ対策に回すということもひとつの方法である。そういうことも含めて考えてほしい。

<木村委員>

予算があるからやると言われるが、来年税収は減る。近隣の市はしないのに、亀岡市だけがやるということでは、市民理解が得られない。今は皆、コロナで困っておられる。うちメシ・そとメシクーポン券も、1,000円でなく2,000円にすれば市民も喜ばれる。KIRI CAFEも一部の人だけがやっている。聖火リレーも、市民が望んでいることなのかと思う。公金を使うことに対しては、縮小が基本で取りやめも考えるという姿勢で、慎重に考えてもらいたい。

<木曾委員>

なぜ、やらないという議論をしていないのかがわからない。市民にすれば、花火大会はしてほしいと思う。7万人、10万人もの人に来てほしいとは思わない。医療従事者や市民のために、市が自前で、予告せずに打ち上げればよいのではないか。何か間違えているように思う。ハーフマラソンも、市民全員が参加するのではなく、代表者だけに走ってもらうことなどを考えてする方がよいのに、市民が望むものはやめて、自分たちの思いがあるものだけを残しているようで納得できない。市民との乖離があるように思う。聖火リレーができないのであれば、京都スタジアムの大型ビジョンに映像を映すようなイベントを企画する方がよいのではないか。

<福井委員>

市長は、花火大会は外から多く来られ、密になるのでできないが、かめおか霧の芸術祭は密にならないのでやると言われた。聖火リレーは密になるので、人を呼べないということになる。ということは、警備員は要らない。それなのに、なぜ予算をおいておくのかと思う。

<松山副委員長>

亀岡市は、ブラジルの大変な状況がわかっているからマスクを送った。今の世界の状況を見ると、1年後にやる、やらないという次元の話ではないと思う。全体的に、公金の使い方ががっかりしている。予算ありき、補助金ありきの話ばかりで、市民の皆さんが一生懸命商売して稼いだお金である。そういうことを行政の職員はわかっていない。今までの習わしがあるかもしれないが、市民に還元できていないのは悲しいと思う。スタジアムでのイベントも、かめおか霧の芸術祭も、何人が来るのか、どのくらいの経済効果があるのかを考えているのか。そんなことをしている場合ではない、やめるべきではないかということなど、行政はいろいろな可能性を考えてほしい。

<山本委員長>

他になれば、かめおか霧の芸術祭について、意見を願います。

<木曾委員>

市長は、今は経済を活性化させていかなければならない時期で、かめおか霧の芸術祭をやることで経済効果が生まれると言われた。ではなぜ、いろいろなことを自粛するのか。何を指して経済効果と言われているのか。観光客に来てもらって経済を活性化させようと、これまで一生懸命やってきたことが、新型コロナウイルスの影響ですべてダメになってしまった。KIRI CAFEは参加人数が少ないから大丈夫だと言われるが、密にならないようにすれば、経済効果は少なく採算ベースに合わない。かめおか霧の芸術祭だけでなく、いろいろな事業をやっていくのであればわかるが、これだけを残そうとする意図がわからない。SDGs 未来都市も、

国に申請して採択されたら補助金が出るということで、今日は、これまで出さなかった資料を出してきた。採択されなかった時にどうするかという説明はなかった。それを第5次総合計画のまちづくりに使おうとしている。ますますわからなくなった。私は、これから更に経済的に厳しくなる人が出てくると説明しているが、実感が無いようだ。経済効果と言うのであれば、手洗いをやって、イベントを全てやるので亀岡にどんどん来てくださいと言うのかと思えば、そうでもない。方向性がわからない。国に認めてもらえれば亀岡のネームバリューも上がるので、第5次総合計画に入れてポテンシャルを上げるということではないか。今日の市長の説明からは、そのように受け取った。それは、採択される前提である。採択されなければどうするのかわからない。賭けのようなことなので、難しいと思う。

<三上委員>

こちらがつつけばつくほど、市ははりねずみのようにこの事業を大きく見せてきたような気がする。新聞報道も含めて、市民には余計にわかりにくくなった。SDGs 未来都市は、私は3月議会でも6月議会でも取り上げた。17項目、169のターゲットを全てできれば素晴らしいことだと思って提案してきたが、このような形で出されて、国の審査を通ればやる、補助金がもらえなければやらないということであれば腹が立つ。この資料は、国の認証を取るためだけの資料である。昨年、政策アイデアコンクールで最高賞をとったかめおか霧の芸術祭を表に出せば大きなアドバンテージになるという、それだけのもので、かめおか霧の芸術祭でSDGs を全てやることはできない。この表題で表に出れば、市民は余計に理解できない。ターゲットイヤーということで、光秀まつりにディズニーパレードを呼ぶとか、他が立候補していない聖火リレーに立候補するとか、ありとあらゆるものをやってきた。それがコロナで全部ダメになった。コロナ後の社会をどう考えるのかを、行政は市民と一緒に考えていくべき時である。決めたことに行政がしがみついてやっていくのか。南丹市は、財政調整基金の残高が10億円余りまで減ってしまっていて大変だ、あと2回台風がきたら持たないと言っているが、亀岡市はもっと少ない。限られた税金の使い方、事業の在り方を根本的に考える意味でも、今回はよい機会にもなった。このような形で出されると、我々も本当はこういうことだとしっかり市民に語れるようにしていかなければいけないと思う。市長の答弁から、リーディング事業とは、根幹の施策ではなく、先端に見えているアドバルーンのような目立つものだと理解した。

<木村委員>

先ほどの小塩課長の説明で、吉田さんが謝礼金を辞退されたと言われたので、収支を見ていかなければいけないと思った。いろいろな人に謝礼を払っているが、実際に市民のためになっているかということを考えるべきだ。周りの人たちも、お友達シリーズのようにになっているのではないか。経済を活性化するのであれば、例えばそとメシキャンペーンのように飲食だけでなく、亀岡市全体の商工業者に対して1,000円が2回、3回と使えるような、即効性のある対策が必要だと思う。「離れ」にのうみは、3年後に民間に渡すことになっているが、かめおか霧の芸術祭はいつまでやるのか。先ほどのSDGs 未来都市の計画では、芸術家の移住が2組であるところから20組を目指すと言われたが、市民にどれだけ移住してもらえるかを考えるべきではないのか。行政がやりたいことだけをやっている気がする。収支はしっかりと見ていかなければいけないと思う。

<木曾委員>

「離れ」にのうみの時に意見を言ったのに、行政は反省していない。市民理解が得

られることが大前提であるべきなのに、補助金ありきで中途半端なことになってしまっている。医者をされている方は、今は密を避けるということで、市民は医者に行かないようにしているので、経営が厳しいと言われていた。看護師の方は、近所の人から子どもを幼稚園に行かすなどか、亀岡から出ていってくれと言われたと聞く。そういう厳しい現状を、我々も認識すべきだ。コロナ関連の予算も対策も、他人事のようになってしまっている。井手町や大津市のように、職員に感染者が出るともっと真剣に考えようと思う。これから雨の多い時期に入るが、避難所で密にならないようなコロナ対策ができていない。訓練をしたこともなく、行政もノウハウを持っていないと思う。全体的に危機感が全くない。今起こっていることを、しっかりやってほしいと言いたい。

<三上委員>

コロナ対策には、特別定額給付金も入れて100億円もの予算が動く。それに比べると1,700万円という事業費は小さな金額ではある。市長がしっかり予算をとってコロナ対策をやっていると言われるのは、金額的にはそうであるが、このような時期に一番大事なのは市民理解である。この事業は、市民が自分たちも関わってみようとか、大事に思うようなものにまだなっていない。そこは大きいと思う。もともと何をしているのかわからないという市民の声からスタートしており、やたらと大きく見せることで、ますます市民が亀岡市についてくるのか疑問である。また、芸術や文化という点では、亀岡会館もなくなり、文化資料館もそのままであるのに、この事業だけが大きく見せられて、市民理解が得られないことは、亀岡にとってはマイナスだと思う。

<木曾委員>

H商店街とコラボするとのことだが、H商店街を支援すべきことは他にあるのではないか。空き家に人に来てもらって活性化するというのを、本当にH商店街の人たちが望んでおられるのか。もっと身近なことで、H商店街の人が、今、何がしてほしいのかということに耳を傾けないから、このようなことになるのではないか。
(委員間討議終了)

【討論】

なし

【採決】

報告第1号(一般会計補正予算(第2号))	挙手全員	承認
報告第2号(市税条例及び都市計画税条例の一部改正)	挙手全員	承認
第1号議案(一般会計補正予算(第3号))	挙手全員	可決
第2号議案(消防団員等公務災害補償条例の一部改正)	挙手全員	可決
第4号議案(訴えの提起)	挙手全員	可決

【指摘要望事項】

<福井委員>

一つ一つに指摘したい。GIGAスクール構想については、先ほど三上委員、木曾委員が言われた観点。国が今後のランニングコストをしっかりと負担すべきという観点。教育的観点と財政的観点。そして时期的な観点。3つの観点を指摘すべきだと思う。スタジアム関連事業については、3月に実施するということだが、イベント

であるからコロナにも配慮しなければならないし、人も集めなければならない。どうしたいのか、はっきりするよう指摘したい。イベントを少しやって、インターネットで発信したいのかが見えない。

<三上委員>

G I G Aスクール構想は、亀岡市として国にしっかり要望するよう指摘したい。また、コロナ後の社会をどのように構築していくかということ、行政も議会も市民と一緒に考えていかなければいけない時期である。事業の在り方については、もう一度原点に立ち返って、本当にこの事業が必要かどうかというところからスタートすべきだと指摘したい。そうすれば、聖火リレーも、かめおか霧の芸術祭も、スタジアム関連事業もそこに入ってくると思う。

<木曾委員>

三上委員が言われたように、既決予算全てについて、現状に即して考え直す時期にきているので、行政として前向きに取り組む必要があるのではないかとこのことを指摘すべきだ。個々に言ってもきりが無い。

<三上委員>

意見書の提出期限は、委員会終了時までとなっている。意見書を出すのであれば、会派や議長とも相談しなければならないが、委員会を閉じずに暫時休憩し、意見書の骨子を考えなければならない。

<木曾委員>

6月議会は26日で休会になるが、議会は閉会していないので、意見書を取りまとめて、議長が招集をかけて協議すればいいと思う。そのことが、通年議会の意義があるのではないかと思う。

<三上委員>

先日、木曾委員にアドバイスいただいたことを忘れていた。無理に6月議会の最後の本会議でしなくても、できるだけ早い時期にやればよいと思う。

<福井委員>

決議文については、議長が音頭をとるのか、総務文教常任委員会を出すのかということであるが、委員会を出すのであれば今日できると思う。かめおか霧の芸術祭については、他の議員も問題意識を持っていると思うので、議会全体で同意が得られれば、それについては議会の決議として出していくという方法もある。今日は、指摘要望とすればどうか。

<山本委員長>

コロナ後の社会について、行政と市民とが一緒になって考えていくべきだということと、本当にこの事業が必要なのかどうかを、全体の既決予算に関して行政もしっかりと考えてもらいたいということを指摘していく。G I G Aスクール構想については、ランニングコストは国の方であるので、教育観点から考えて、先生に対する支援員の派遣や研修など、しっかりとサポートするようということも入れていく。時期的観点と言われたが、もう少し詳しく述べてほしい。

<福井委員>

時期的観点というのは、校内ラン環境から整備していくということに、端末導入が加わってきたので、単純に端末が導入できるかできないかということである。

<山本委員長>

緊急時に対応できるように、オンライン学習ができるようにということも含めて準備をしっかりしていくようにということも指摘していきたい。文言については正副委員長に一任願う。6月26日に委員長報告の内容を確認していただく。

5 その他

(1) 議会だよりの内容について

<山本委員長>

議会だよりの内容については、26日に追加議案が出てから協議する。

(2) 次回の月例開催について

<山本委員長>

7月は、決算分科会で事務事業評価に向けた協議として、事務事業評価事業の選定を行っていきにあたり事務局から説明を行う。

他に、月例で取り組むことについて、意見はあるか。

<福井委員>

先ほど意見が出ていたが、意見書か決議についての協議をしなければならないと思う。

<松山副委員長>

今の話は最重要だと思う。それと、木曾委員が言われていた災害の問題も重要なことだと思う。もう一つ提案したいのは、亀岡市に置かれている放置車両の処分に関するものである。私が一般質問で取り上げたが、亀岡市の中でも放置車両が非常に多くて、今後、火災が起こるかもしれない。処分に関して何が問題かと言うと、条例がなくルール化ができていないので、そのままになっている。京都府内でもかなりの市が処分に関する条例を作っている。このようなことを委員会として勉強していき、条例化に向けてやっていきたいと思う。

<山本委員長>

放置車両の処分に関して、条例化に向けて進めるということではどうか。

— 全員了 —

<山本委員長>

7月は、決議または意見書について、具体的に話をして進めていきたい。そして、副委員長から提案のあった放置車両の処分について、どのような形で条例化していくかということも話をしていきたい。もう1点、防災については、具体的にどのように進めていくかを検討していきたい。

7月の月例委員会は、7月9日(木)午前10時から開催する。

次回の委員会は、6月26日(金)の本会議終了後、追加議案の審査、委員長報告の確認などをお願いする。

本日は、これで散会する。

散会 ～12:28